

事業所名 グループホーム心から
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年11月 4日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 介護支援専門員
資格・経験 ホームヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士
B:現職 特別養護老人ホーム勤務
資格・経験 介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・茶屋町駅の東北、汐入川沿いの住宅街の中に法人のリハビリケアセンターがあり、グループホームはその2階部分にある。高齢者、障害者専用自立支援型マンション「アシストリビング創から」が隣接しており、互に行き来することが出来る。また、1階のデイサービスには、入居者の家族や友人、知人も利用しており、互いの安否確認等交流を図っている。
- ・グループホームとの共有部分は、「アシストリビング創から」の入居者の食事場所やくつろぎのスペースとしても利用されている。ベランダでは、鉢植えの花がたくさん育てられており、気候の良い日には外でのんびりと過ごせるようテーブルと椅子も置いてある。
- ・「生活の主体者として生きるための心を創ること」を理念として掲げており、職員は一丸となってより良い本物のケアの提供をめざし、研修にも積極的に参加している。
- ・特に、家族・地域との連携に力を入れており、町内会・近隣の方との交流を続けながら、入居前からの暮らしの継続と本人の希望する暮らしの実現をめざしている。
- ・医師・看護師・家族・介護スタッフ間の連携のもと、ターミナルケアが行われている。最後まで安心してグループホームで暮らせることは、本人は元より家族にとっても心強い。
- ・専門知識や介護技術だけでなく、接遇マナーにも力を入れている。入居者に、礼儀正しく丁寧に話しかけている姿が自然であり、心が和む。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

・昨年は、「非常災害時の避難訓練」が行われていなかったが、今年度は避難訓練記録や連絡体制も整備し、特に改善するところは見当たらなかった。法人の「お一人おひとりの心に寄り添いながら利用者主体の生活を支援していく」という理念をより地域に広げていき、今後、益々認知症高齢者の増加が予想される中、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを進めていただきたい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームへ入居後も、入居前と変わらぬ暮らしの継続をめざしており、1階にあるデイサービスの利用者(家族や友人)との交流や同じ階にある障害者・高齢者専用住宅の入居者との交流、馴染みの理美容院やパン屋の利用も続け、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。 ・地域や家族との交流を大切にしながら、終末期までの介護を提供できるように取り組んでいる。 ・一人ひとりの心に寄り添い、「入居者主体の生活」ができるよう、生活リハビリを行いながら現在の健康状態を維持できるように努めている。 ・手すりやベッド欄などをすぐには取り付けず、今ある環境を最大限に生かしながら、出来る限り現在の身体状況を維持できるように努めている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールには、3畳ほどの畳のコーナーがあり、三方を障子で囲っているため目隠しとなり、人目を気にせずゆっくりとくつろげる場所となっている。障子には、日本の昔の暮らしを思い起こさせる楓やイチョウなどの造花が飾られており、入居者が居心地良く過ごせるように配慮している。 ・ホールの隅にはソファを置き、新聞を読んだりテレビを見たりと、一人ひとりが思い思いの時間を過ごせる場作りを行っている。 ・自分の部屋に近いトイレ(共用空間にトイレが4箇所ある)を自分の物と思っ込んでいる方には、自室の前の廊下に衝立を立てかけ、トイレを利用する所が見えないように配慮している。 ・職員は、常に礼儀正しく丁寧に入居者に話しかけており、個人の尊厳を大切にしたい対応を心がけている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のベースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・琴やオルガン演奏、洗濯物たたみ・野菜切り・お盆拭き・包丁砥ぎ・ゴミ捨て等々、個々の経験と力量に合わせた仕事を分担し、楽しみながら連日甲斐を持って生活してもらえるように取り組んでいる。 ・個人のファイル類は、事務所内の鍵のかかる戸棚に保管し、個人情報流出を防いでいる。 ・親しい間柄になっても礼儀をわきまえ、人生の先達として尊敬の念を持って入居者と接しており、部屋に入る時には必ずノックをして断ってから入り、入居者の名前は苗字で呼ぶようにしている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットや事故報告書は、カンファレンスの時に職員全員で検討し、再発防止に努めている。 ・事故の再発防止に向けては、原因の解明だけでなく、「何故そのようにしようと思ったのか」という本人の気持ちに共感して理解することから検討するようにしている。 ・安全を重視し、「手すりを取り付けほうが良いのではないか」という意見が出ることもあるが、「現在ある環境を生かし、日常生活動作の維持を行う」という法人の方針に沿い、質の高いケアサービスの提供に努めている。また、質の高いケアサービスを提供するためには、スタッフのゆとりが必要と考え、業務の省力化や職員の連携等、余裕を持って支援ができるよう努力している。 		